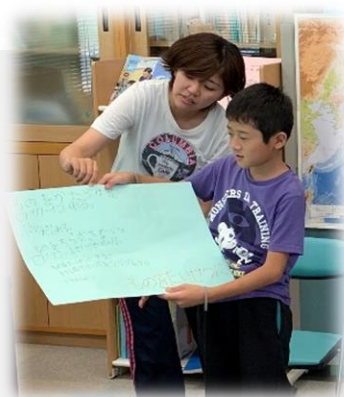


# ポジティブな行動支援で 子どもが主役の学校作りへ



～子どもの適応行動を支え、成長を促す～

令和4年2月



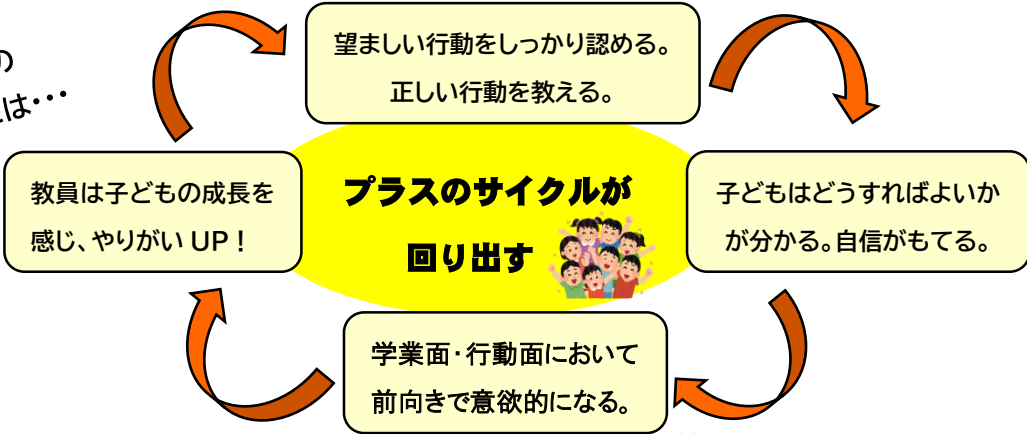
和歌山県立はまゆう支援学校

# ポジティブ行動支援 (PBS) in はまゆう

## ポジティブ行動支援とは？

ポジティブ行動支援 (Positive Behavior Support: PBS) とは、ポジティブな行動 (本人の QOL 向上や本人が価値あると考える成果に直結する行動) を、ポジティブに (肯定的、教育的、予防的な方法で) 支援するための枠組みです。子どもの成長を促すため、望ましい行動を「引き出す工夫」と「認める・褒めることによって、またしたくなる仕掛けづくり」を行います。

ポジティブの  
向こう側には...



## 目指す子どもの姿

### ゆたかな心 たくましい力

健康で安全に  
生活する子ども

よく考え、豊かに  
表現する子ども

働く意欲・喜びをもち  
自立的に生きる  
子ども

仲間を大切にし  
社会生活に参加する  
子ども

## ① 指導の基準 作成

組織的アプローチを行うため  
管理職や寄宿舎指導員も含め  
全員で意見を出し合う!

「目指す子どもの姿」を踏まえ、子どもの気になる行動とその行動が解決すればどのような姿が望めるかを具体的に書き出します。

ex) イライラすると人や物に当たる  
→解決すると...人や物を大切にできるようになる

書き出した意見をグルーピングし、カテゴリー化することで指導において大切にすることが見えてきます。これが指導の基準!

ex) 人や物を大切にしよう

「〇〇しない」ではなく  
肯定的な表現で!  
「●●する」「●●しよう」

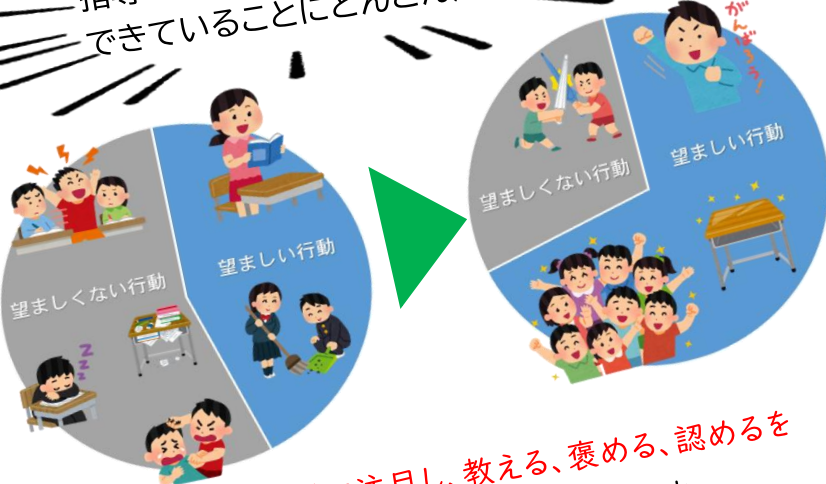
## ④ ポジティブフィードバック

フィードバックは、大きな意味で  
子ども自身や私たち教員の  
行動の強化になる!

子どもの行動の良い変化をしっかりフィードバックすることも、PBS を成功させるための重要なポイントです。視覚的に分かりやすいもの、形に残るものでフィードバックすることにより、みんなで変化を共有し認め合うことができ、さらにはがんばるぞ!という気持ちを生みやすくなります。



指導の基準をベースに  
できていることにどんどん注目!



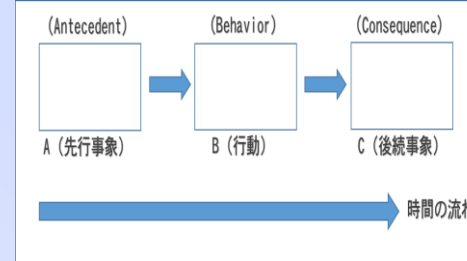
望ましい行動に注目し、教える、褒める、認めるを繰り返すことで望ましい行動を増やします。結果として望ましくない行動は減少します。

## ② ABC フレームを活用したアプローチ

PBS の基本原理である、応用行動分析学より **ABC フレーム** の活用!

行動の前と後に起きている事象から行動の原理を追究!

人の行動には必ず理由がある!  
だからこそ、A (先行事象) と C (後続事象) を工夫することで子どもの望ましい行動は起きやすくなります。



**A → B → C**

望ましい行動を  
引き出す工夫

望ましい  
行動

望ましい行動が  
繰り返される工夫

※経験したことがないことは教える

## ③ データに基づく意思決定

データに基づく意思決定は PBS における欠かせない要素の 1 つ!

日常的な直感や、個人特定の対応で指導するのではなく、子どもの行動の増減をデータにとり、エビデンスに基づいた指導をチームで検討、共有し実施することが大切です。



ベースライン (PBS 取り組み前) のデータ収集もしておくこと、変化がわかりやすい!

学校文化として根付く、10 年来の取り組み!



毎週 1 回、15 分授業改善会議を実施!!  
この会議を活用し、データを共有したり、望ましい行動を引き出すための環境設定や行動の後の評価方法等を話し合ったりします。